

「食卓」の向こう側

- 第2回 -

戴容秦思
(だいやうしんし)

人手不足？ or 人件費削減？

他の工業一般やサービス業などと違って、「食」や「農」に直接かかわる現場の職種には、ある意味、意図的な敬遠（ないしは差別視）も存在していたのかもしれない。農業はともかく、食品工場や惣菜工場、物流業界やスーパーなどの仕事は、「キツイ」割に「給料が安い」、というイメージがあるようです。そもそも、「食す」というのは、人が生きていく上で基本的な需要であり、生命を維持するための必須条件ともいえます。この基本的需要を充たしてくる産業は、人々の活動を支える社会の基盤をなしています。ところが、多くの食品生産・製造、流通の現場では、なかなか正規社員を雇えず、アルバイトやパート、外国人労働者でなんとかやりくりしているのが実情です。「募集しても人が集まらないんだ」と、嘆いている工場長や現場責任者を何人もみてきました。アルバイトやパートが来てもすぐに辞めてしまうケースも多いそうです。にもかかわらず、経営上では「人件費削減」がいつも課題として上がり、人にあまりカネをかけたくない事情があるようです。さて、このような状況をふまえてもう少し深く考えてみることにしましょう。

会経済状況では、儲けるためにはまず原価と人件費をいかに削減しようかと考える傾向にあります。しかし、それでいいのでしょうか？ 農業と食品産業にかかわる労働者は、消費者でもあるということに注意すべきです。私たちにとつて、生活に足る収入が保障されることは、持続的に働いていくための基本条件です。安い給料しか得られない場合、日々の生活に欠かせない食品の買い物もできるだけ安いものを求めてしまいます。消費者の低価格志向に応えるかのように売れる側は価格競争を引き起こし、やがてそれが悪質なものに変貌し、商品値段は限界まで引き下げられてしまっています。その結果、労働者の賃金が下がり…と負のスパイラルに陥ってしまいます。

最近によく「人手不足」を耳にします。パイロット不足の解消が航空業界の最大課題だとか。確かに、人口減少と少子高齢化によってどの産業も慢性的な人手不足になっていきましたが、その状況が徐々に悪化して問題が浮き彫りになってしまったように思います。「食」・「農」関係でいうと、随分前から言われてきた農林水産業の後継者不足問題や、食品加工・流通業の人手不足問題など、決して最近になって現れた問題ではありません。その背景には、大きく「少子高齢化」がありますが、就職適齢者の中でもこれらの仕事に就く人が多くないというのが現状です。

今日、食料の生産、加工、流通ないしは食品産業でいわれているさまざまな「人手不足対策」のうらに「人件費削減対策」があるように思います。さらに、自動化機械やAI技術が発達するにつれて、世の全体が「労働力を必要としない」方向へ傾きつつありますが、果たして私たちの労働はまったく要らないのでしょうか？ 私たちの労働の価値はいったいなんなのでしょうか？ これからも一緒に考えていきたいと思います。

商売は儲かることが重要です。今の社

(和歌山大学食農総合研究所・特任講師
中国・雲南省出身)

第113回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

地域の資源を活用して行う認知症予防活動の成果と現状 ▶ 日時 6月19日(水) 19:00-20:30

話題提供者 今岡 真和 (大阪河崎リハビリテーション大学) ▶ 場所 岸和田市立浪切ホール 4階 特別会議室

わだい浪切サロンとは？ 毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の午後7時～岸和田市立浪切ホールで開催するmini和歌山大学です。

申込み不要

参加費無料

お問合せ先 ▶▶▶ 和歌山大学岸和田サテライト 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 岸和田市立浪切ホール2階 電話/FAX: 072-433-0875